

## アジア健康長寿イノベーション賞 (HAPI)



### 第4回 HAPI 大賞受賞者

(写真左から)

パディアレスキュー創設者兼代表 エドレン・ラニージョ (フィリピン)

ナースアンドクラフト株式会社代表取締役 深澤裕之 (日本)

チェンマイ大学理学部/生涯教育学部准教授 ナッティー・スリー (タイ)

## 略歴・活動紹介



エドレン・メヒア・ラニージョ (Edren Mejia Llanillo)

パディアレスキュー創設者兼代表 (フィリピン)

エドレン・メヒア・ラニージョ氏は、フィリピンにおいて地域発の取組「ゴー・バイク・プロジェクト」の創設者であり、革新的な取組を推進する若手リーダーである。同プロジェクトでは、若者が高齢者支援に主体的に参画することを通じて、地域の健康増進および防災・減災力の向上を図る草の根型イニシアティブである。同氏の活動分野は、若手リーダーシップの育成、公衆衛生、ガバナンス、防災・災害リスク軽減・管理に及び、地方自治体や国際機関と連携しながら地域社会の強靱化に取り組んでいる。あわせて、Bugallon 市（ブガロン市）において最年少の市議会議員を務めている。

### コミュニティ部門 大賞受賞 「ゴー・バイク・プロジェクト」

フィリピン・ルソン島の農村地帯にあるブガロン市で始まった「ゴー・バイク・プロジェクト」は、若きユース・ボランティアグループ「ゴー・バイカー」たちが担う、高齢者の健康支援と防災を一体で進める注目の地域モデル。簡易検査機器や救急キットを積んだ改造自転車で高齢者宅を巡回し、血圧や血糖値を測定・記録。異常があれば医療専門職につなぎ、必要に応じて医薬品も届ける。慢性疾患を抱える高齢者が多い農村部で、重症化予防に貢献している。

さらに台風常襲地帯という特性から、避難支援や防災活動にも力を入れ、平時の見守りを災害時の迅速対応へとつなげている。

2019 年開始、2024 年までに 2,113 人を養成し、約 200 台で 41 コミュニティ・4 万人超を支援。若者育成と地域レジリエンス強化を同時に実現する取り組みとして広がりを見せている。





ナッティー・スリー(Nuttee Suree)

チェンマイ大学理学部/生涯教育学部准教授 (タイ)

感染症 (HIV/AIDS、COVID-19) に関する創薬研究に取り組む計算生化学者。構造生物学、分子動力学シミュレーションを専門とし、バイオ医薬品等の開発に従事している。

同時に、教育研究にも力を注ぎ、高齢者、教員、学生、社会人など多様な学習者を対象とした新たな学習プラットフォームの開発と実証研究を推進。科学的知見をもとにして、生涯学習社会の実現に向けた教育環境の向上に取り組んでいる。

### 自立支援部門 大賞受賞

#### 「デジタル時代における高齢者の職業スキルを育成するプログラム」

チェンマイ大学生涯教育学部は、高齢者の収入向上を目指す多世代型起業家育成エコシステム「MEDEE」を立ち上げた。高齢者にやさしいデジタル・リテラシーや職業スキル、心身の健康に関する講座を体系化し、オンラインビジネスなど新規事業の立ち上げを基礎から実践まで支援する取り組み。

本プロジェクトは、SDGs 目標 4「質の高い教育」に呼応し、タイ国家研究評議会の支援も受ける大学の戦略的事業の一環。高齢者が参加しやすいよう、対面講座と、国内で広く利用されている LINE アプリを活用したオンライン学習を組み合わせ、全国展開を進めている。運営には高齢者自身も参画。1,000 人超の認定トレーナーの多くが高齢者で、ノルディック・ウォーキングや金融詐欺対策などの講座企画にも主体的に関わる。学ぶ側から教える側へ——高齢者の可能性を広げる新たな教育モデルとして注目されている。





## 深澤裕之 (Hiroyuki Fukasawa)

ナースアンドクラフト株式会社代表取締役 (日本)

介護専門職の総合情報誌のディレクターとして大手介護系 Web メディアへの寄稿や大手企業の介護系プロダクト開発プロジェクトへのアドバイザーなどを経験。2017 年にはエストニアのスタートアップ企業との交流を開始。2019 年、広島県呉市豊町久比を拠点とした「まめなプロジェクト」に参加。「くらしを、自分たちの手に取り戻す」をミッションに活動を行うなか、介護のいない社会を実現するため、「Nurse and Craft」を久比に設立。2023 年株式会社へ組織変更。

### テクノロジー&イノベーション部門 大賞受賞「まちを再生する訪問看護」

「Nurse and Craft」は、瀬戸内海に浮かぶ高齢化率約 70%の大崎下島を「未来の日本の縮図」と位置づけ、地域発の予防・伴走型ヘルスケア事業「STARTWELL」を展開している。

STARTWELL は、訪問看護ステーションを基盤に、①定期的な健康チェックと個別アセスメント、②IoT 機器を活用したバイタルデータの遠隔モニタリング、③看護師や専門職によるオンライン／対面での健康相談、④運動・栄養・生活習慣改善プログラムの提供、⑤地域内外の医療・介護資源とのコーディネートまでを一体で実施。疾病の早期発見・重症化予防に加え、社会参加や就労的活動も視野に入れ、「よりよく生きる」ための具体的な行動変容を支援する。

人口減少が進む過疎地において、医療・介護インフラの整備とデータに基づく予防モデルを同時に実装した点は先進的であり、STARTWELL は、住民の健康寿命延伸と地域の持続可能性を両立させる、超高齢社会日本の実装モデルとして注目されている。



## 主催団体について

東アジア・アセアン経済研究センター

Economic Research Institute for ASEAN and East Asia



東アジア・アセアン経済研究センター（ERIA）は、東アジア経済統合の推進を目的として、政策研究・政策提言を行う国際機関。2007年の第3回東アジアサミットの議長声明を受け、2008年にアセアン事務局においてERIAの設立総会が開催され、ERIAが正式に設立された。ERIA本部は、インドネシアの首都ジャカルタに位置し、アセアン10カ国（ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム）と日本、中国、韓国、インド、豪州、ニュージーランドの計16カ国が加盟している。ERIAは、政策研究事業の3つの柱として、「経済統合の深化」、「経済格差の是正」、「持続可能な経済発展」を掲げ、貿易・投資促進、グローバル化、中小企業振興、人材育成、インフラ開発、エネルギー、農業、環境問題、ヘルスケア等の広い政策分野をカバーした研究活動を実施し、その成果を東アジアサミットやアセアン経済大臣会合等の場で各国首脳・閣僚を含む政策当局者に提言し、政策の実現を促している。また、研究成果の普及と域内の産学官の幅広い関係者の意見交換の促進を目的として、各国においてシンポジウム・セミナーを実施している。

公益財団法人 日本国際交流センター

Japan Center for International Exchange



公益財団法人日本国際交流センター(JCIE)は、民間レベルでの政策対話と国際協力を推進する公益法人。国際社会の安定と発展には、政府による外交のみならず、様々な民間アクターによる国を超えた相互理解や協力が不可欠という信念のもと、民間外交のフロントランナーとして、世界と日本をつなぎ国内外の諸課題解決に貢献している。「人間の安全保障」の視座のもと、外交・安全保障、民主主義の擁護、グローバルヘルス（国際保健）、グローバルな人の移動、女性のエンパワメントなど、多角的なテーマで国際交流や政策対話・政策提言活動を実施。グローバルヘルス分野では2004年に「グローバルファンド日本委員会」を、2007年に「グローバルヘルスと人間の安全保障」プログラムを開始、日本のグローバルヘルス政策形成を後押しし、官民連携と意識喚起のための国際会議や政策提言、アドボカシー活動を行う。2016年に日本政府が「アジア健康構想」を発表したことに呼応し、新たに「アジアの高齢化と地域内協力」事業を開始、東アジア・アセアン経済研究センター（ERIA）とのパートナーシップにより、アジアの高齢化、高齢者ケアに関する政策対話と表彰事業、情報発信を行っている。